

## モンゴルが抱える教育課題

— 経済的問題を主軸として —

仲 律 子<sup>1)</sup>

### はじめに

1990年に社会主義から民主主義に移行したモンゴルは、1992年に人民革命党が、1996年に民主連合が4年ごとに行なわれる総選挙で政権を握った。両政権とも、大幅な市場経済への改革を求めて動き出したが、この民主主義への急進的な移行はモンゴル経済を圧迫し、国民の貧富の差を広げ、また政治家の汚職などを生んだ。2000年7月に行なわれた総選挙では、4年ぶりに人民革命党(旧共産主義政党)が国情にあった改革を公約にし、政権を奪還した。

一方、学校教育も社会主義時代はソ連にならい、マルクス主義の原理に基づき、頭脳労働と肉体労働の総合を通じた教育を行っていた。モンゴル政府は、ソ連の指導のもと、人口の大半が文盲であったモンゴルの識字率を100%に近づけ、学校教育を宗教と分離した。また、学習計画を改善し、教科書を作成し、教育の質を向上させた。そして、師範学校にも要綱と授業計画を設け、教員を養成し、彼らの専門知識の向上をはかった。社会主義時代の教師の質は非常に高かったという。

しかし、モンゴルがソ連依存政策から脱却して民主主義を選択した時から、経済的な問題を抱えることとなり、学校教育の質を維持していくことが困難になる。つまり、約70年間の社会主義経済から、市場経済システムへの変化に耐えられず、急激なインフレが進行した結果、教師の給与額が激減し、優秀な教師の民間流出が顕著になった。社会主義時代のソ連から来た教師が改革後帰国し、その上優秀な教師が民間に流出してしまったのである。さらに現在のモンゴル人教師の給与は公務員の月平均月給よりもはるかに安いので、教師になりたいという若者が少ない。そうすると、学校教育の質の向上をはかることは非常に難しい状態である。

また、失業者の数が増加し、物価が高騰した結果、家

庭で養えなくなった子供たちは家を出て、ストリートチルドレンになる。零下40度の厳寒の中、地下のマンホールの底で生活をするのである。その数は警察の調べで300人、国際的な支援団体によると1,500人は下らない。彼らは子ども同士で集団生活をし、大きい子供たちは小さい子供たちを養うために働いている。

さらに、大多数の国民の生活が厳しくなったことにより、職を求めて都市に流入する人口が増加した。首都であるウランバートルの就学児人口は増加し、そのために1クラスの児童・生徒数は増え、教室の数が足りなくなる。その一方で地方で生活する人口が減少することになり、それに伴い就学児人口も減り、教師は地方に赴任しなくなる。したがって、地方の教育の質も低下し、経済的問題と相俟って遊牧民の子どもが学校をやめることが多くなる。以前は、遊牧民の子供たちのために移動教室が設けられていたが、その数は減少している。このような悪循環がこの10年間繰り返されているのがモンゴルの現状である。以上のような現状を踏まえながら、(1)現在の教育制度、(2)国立学校の事例、(3)1998~1999年の教育記事、(4)2000~2001年の教育目標、(5)モンゴルが抱える教育課題を検討していきたい。

### 1. 現在の教育制度

はじめに、社会主義から民主主義に移行した現在のモンゴルの教育制度について簡単に触れてみたい。

現在、一般教育校は4-4-2制の学制をとっており、義務教育期間は8年間である。日本の学校と対応させると、最初の4年が小学校、次の4年が中学校、最後の2年が高等学校である。この学制は政権を握る政党によって改正されることが少なくない。

小学校に就学する年齢は通常8歳からであるが、保護者の希望により6歳または7歳から入学する者もいる。したがって小学校1年生は年齢別に分けられてクラス編成されることが多い。

教育課程については、小・中・高校を通じて共通に行なわれている教科は、モンゴル語、数学、技術、体育、

1) 名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程(後期課程)

モンゴルが抱える教育課題

選択科目の外国語，学校裁量の科目である。その他，学年によって設定される教科は，文学，外国語，コンピューター，自然学，地理学，生物学，物理学，化学，歴史・社会，音楽，図工である。一般教育校では，社会主義時代にあった製図や労働教育という授業は現在では行なわれておらず，一般的知識教育に重点が置かれている傾向にある。

モンゴル語の授業に関しては，民主化の進展に伴いモンゴル文字（旧文字）の復活の気運が高まり，1991年6月の国家小会議で，1994年からモンゴル文字を全面的に復活させることが決まったことにより，モンゴル文字を教授することになった。このモンゴル文字は，チンギス・ハーンの時代から使用されていたもので，民主主義化したモンゴル国民の誇りの復活を象徴する文字でもある。現在，主に使用されている文字は，キリル文字とってソ連の指導のもとに作られた文字であり，モンゴル文字はチンギス・ハーンの栄光と共に表舞台から退けられたものであった。

学期は4学期制で，毎年9月から1学期が始まり，翌年5月末で4学期が終了する。最も長い休暇は夏休みで，6月～8月末の3ヶ月であるが，モンゴルは冬の寒さが厳しいため，現在，夏休みを短くして冬休みを長くしようとする提案がなされているようである。

授業の行なわれるのは，年間34～36週で週当たりの時間数は22～30時間である（TABLE. 1 参照）。学年に

よって若干の差異がある。

進学状況は，小学校進学率が約98%，高校進学率が70～75%であり，モンゴルのような経済的問題を抱えている他の国家と比較すると，非常に高い進学率であるといえる。モンゴル政府は，子どもに義務教育を受けさせなかった父兄に，10,000～25,000トゥグrik（日本円で約1,000～2,500円）を罰金としての支払い義務があることを定めている。

1単位の授業時間は基本的に40分で，休憩時間は5ないし10分である。また，授業は二部交代制をとっており，学年によって午前または午後の授業を受けることになる。たとえば1年生は午前の授業，2年生は午後の授業を受講するという形態である。

試験は，学期末に4回あり，その内の学年末の試験が進級試験となる。進級試験に不合格となった場合は落第することになる。落第をすると問題行動を起こす児童・生徒がいるために，現場の教師は非常に慎重に決定を下している。

教科書は，文部省から配給されるが，教科書使用料として150トゥグrikを支払うシステムとなっている。児童・生徒は教科書を貸与されており，使用後は学校に返還しなければいけない。したがって，児童・生徒はとても大切に教科書を取り扱い，落書きをすることなどもってのほかなのである。

小学校は基本的に学級担任制で，中学校以降は教科担

TABLE. 1 モンゴルの一般教育校の開設教科及び学期別の週当たり時間数（2000年現在）

学年と学期	1年生				2年生				3年生				4年生				5年生				6年生				7年生				8年生				9年生				10年生							
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV				
1 学期ごとの週の数	8	9	9	8	9	9	8	8	9	9	8	8	9	9	8	8	9	9	8	9	9	9	8	9	9	9	8	9	9	9	8	9	9	9	8	9	9	9	8	9	9	9	8	9
1 モンゴル語	8	8	8	9	7	8	8	8	8	9	8	8	8	7	7	7	7	4	4	4	4	3	3	3	4	4	3	4	4	3	3	3	2	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2 文 学																	2	1	2	2	2	2	2	1	1	2	2	1	1	2	2	1	1	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2
3 外 国 語																	4	5	4	4	4	4	3	4	3	3	2	3	3	3	2	3	2	3	3	3	3	3	3	2	3	2	3	2
4 数 学	4	4	5	4	4	5	5	4	4	4	5	4	4	4	5	4	4	4	5	4	4	4	5	4	4	4	4	4	4	4	5	4	4	5	4	4	5	4	4	5	4	4	4	5
5 コンピューター																																												
6 環 境 学	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2																																
7 自 然 学													2	2	2	2	2	2	1	2	4																							
8 地 理 学																									2	2	1	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
9 生 物 学																									1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	1	1	1	1	1	2	2	2
10 物 理 学																													1	2	2	3	3	3	4	4	4	4	5	4	4	4	4	3
11 化 学																													1	2	2	1	2	1	2	2	3	3	3	2	2	3	2	3
12 歴 史 ・ 社 会													2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	2	3	2	2	3	2	2	3	2	3	1	1	1	1	2	2	2	2
13 音 楽	2	2	1	1	2	2	2	2	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1																					
14 図 工	1	1	2	2	2	1	1	2	2	2	2	2	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1																				
15 技 術	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	3	2	2	3	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
16 体 育	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
17 選 択 外 国 語	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
18 学 校 裁 量 の 科 目	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3
計	22	22	22	22	22	23	23	23	23	23	23	23	23	24	24	24	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	29	29	29	29	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30

出展）モンゴル文部省 文部大臣による1998年の第100番目の指示による第3回の追加より。

任制となる。小学校においては、教科によって教科担任制をとることもある。

学校区は存在し、地区別に指定された学校があるが、特別に希望する児童・生徒は学校区外からでも試験を受けて合格すれば通学することもできる。

モンゴルの教育法では、学級編制基準は35人となっている。障害児クラスでは4～10人、盲目児クラスでは7人と決められている。この学級編制基準は、1991年の教育改革についての会議で制定された。何故35人という数字が算出されたかという点、文部省研究チームが教師と児童・生徒数と教室の空気を測定し、適正なクラスサイズを35人としたのである。また、この時技術と外国語の教科では、35人を2クラスに分けることも規定された。しかし、2000年度のウランバートル市の調査では、1クラスに平均45人の児童・生徒が編制されているという結果が出た。ウランバートル市にある多くの国立学校では都市部への人口流入に伴い、多いクラスでは60名近くの児童・生徒が1クラスにいることもある。

したがって、現状では教室や机・椅子が足りないことがあり、学校によってはある学年がいなかったりする。机は1つの長机を2～3人が共有していることが多く教育環境としては良好とはいえない。

児童・生徒の成績表については、日本のような通知表のようなものはない。また1クラスには1つの成績簿しかないで、各教科の担任は1つの成績簿に児童・生徒の成績をつけていくことになる。

教師教育については、現職教師への研修などは全くなく、大学生が行なう教育実習が唯一の教師教育と呼ばれるものである。大学3・4年生の時に各45日ずつ教育実習を実施している。

簡単ではあるが、現在のモンゴルの教育制度を概観してみた。

## 2. 国立学校の事例

それでは、実際の10年制一般教育校の現状がどのようになっているのかを具体的に挙げてみたい。

### (1) 国立第33学校

第33学校は1966年に設立され、現在2,500名の児童・生徒を抱えるマンモス校である。ウランバートル市街の北東に位置し、地方から市内への人口流入に伴い、年々児童・生徒数は増加の一途にある。教室の数はならず、1クラスの児童・生徒数は、最大で57名という状態であり、教育環境的には望ましいとは言えない。

教師数は73名で、内訳は男性教師13名、女性教師60名、校長は1名である。教師は教科だけを教えるため、

サービス担当として事務等を行なっているスタッフが28名いる。

第33学校の大きな特徴としては、5年生からの選択授業で、ソフトテニス、モンゴル・ダンス、馬頭琴のクラスがあり、ソフトテニスにおいては1999年度に全世界大会で優勝するという素晴らしい成績をおさめている。

第33学校では午前の授業に8～10年生を、午後の授業で5～7年生を教え、1～4年生は午前・午後のどちらの授業を受けてもよいという形態がとられている。授業は40分授業で、休憩時間は5分または10分である。基本的に1～4年生は学級担任制、5～10年生は教科担任制としており、外国語と数学だけは1～4年生でも教科担任制をとっている。

小学校に入学する年齢は8歳と法律では規定されているが、保護者の希望により、6歳や7歳で入学する場合もある。第33学校では2000年度の6歳入学児が24名、7歳入学児が26名であった。

モンゴルの雇用状況は少しずつ改善されてきているものの、2000年1月1日現在失業者の65.3%が16～34歳の若者たちであると報告されている。義務教育の8年間を終えて、9年生に進学する割合が70～75%と言われているが、モンゴルでは18歳にならないと一人前ではないという認識が広まっているため、16歳で学校を卒業していく生徒たちには就職の道は狭く閉ざされている。

そのため、第33学校では、8年生卒の生徒のために美容院コースなどの短期コースを設けている。また、最近の自家用車の増加に伴い、9・10年生在学中に運転免許が取得できるようなコースも整えられている。

### (2) 国立第93学校

第93学校は1991年8月1日に国民会議委員会第231命令で設立され、組織者は教育学教授 Ts. ニャンダグ、理化学教授 S. ネルグイ、功労教師 D. バンディ、技師 P. トゥムルバートルである。教育プログラムと教材を学校で作成し、優秀な児童・生徒をウランバートル市内から広く募集するという新しい形態をとる特殊な学校である。学校の表札には「天才学校」と明記されている。所在地はウランバートル市街の北西に位置する。

劇場であった建物を学校とし、学校設備としては教室数が足りないという不備はあるが、大学進学率100%を誇る進学校である。

現在、教師は30名で内訳は男性教師3名、女性教師27名である。校長1名と教頭2名はこの30名の中に含まれており、彼らは教科も教えている。児童・生徒数は600名で、2000年度は教室数が足りないため、小学校1年生はいない。

生徒は入学・編入時に、100～150ドルのスポンサー金を支払い、そのスポンサー金は「教師たちの才能の会」と呼ばれる第93学校の組織に納入される。基本的に、第93学校は国立の学校であるから、教師の給与は国から支給されるのであるが、別途能力給が「教師たちの才能の会」から支払われることになる。

教師は学校と1年ずつ契約を更新し、4学期ごとに実施される児童・生徒の成績の結果によって、3つのレベルに分けられる。そのレベルに応じた能力給が給与とは別に支払われるのである。

したがって、教師の質は必然的に向上し、入学・編入希望者は後を絶たない。教師が作成する教材は有料であり、保護者たちは優秀な教師が作成する教材を喜んで購入する。

文部省から出されている年間の教育目標や学習指導要領は規定通り遵守・実施をしているが、通常の学年より学習進度は速く、学習時間数も他の国立学校よりも多い。

モンゴルでは学期末に通知表を生徒に渡すことはない。教師がつける成績表も1クラスに1冊あるだけであるが、第93学校では教師1人につき各クラスの成績表を所有することができる。

また、1クラスの児童・生徒数は、学級編制基準の35人を遵守し、30～35名で編制されている。

これまで見てきたように、第93学校は他の国立学校と性質を異にする学校であるが、この学校には以下の5つの校則がある。児童・生徒は必ず守らなければいけないルールであるという。①教師をだまさない、②タバコを吸わない、③お酒を飲まない、④嘘をつかない、⑤変な言葉を使わない。これらのルールを守れない場合は退学になるという。

しかし、一見素朴に見えるように思われるこれらのルールは、チベットラマ教の開祖ソンハバが唱えた「ホクトクの八つの道＝八正道」の流れをくんでいるとも考えられる。仏教徒として必要である1)正しい見方、2)正しい切望、3)正しい言葉、4)正しい行為、5)正しい生活、6)正しい努力、7)正しい考え、8)正しい精神統一を身につけさせることが根底に存在するのではないだろうか。

いかに性質を異にする天才学校であったとしても、モンゴル国の昔からの人間としての基本的な構えであるルールを遵守させることは、非常に重要であると考えているのである。

### 3. 1998～1999年の教育記事

ここで、モンゴル国の1998～1999年にかけての教育に

関わる主な新聞記事を挙げてみたい。TABLE. 2に表されているように、教職員の給与に関する記事が最も多く、モンゴルの学校教育課題の大半は、教職員の解雇や給与未払いのためのストライキといった経済的な問題が主であると考えられる。

教師の給与が安い上に、支払いが遅ればストライキが発生するのは仕方がない。ただ、教師に日々の生活への不安を抱かせるとするならば、教育の質を向上させることは難しい。第一次生理欲求という人間の基本的な生存に関わる欲求を満たすことができないければ、二次的な社会的欲求は生まれにくいのである。

また、TABLE. 1の教育記事から、専門学校や大学などの高等教育機関の教育内容改善や評価基準の検討が課題となっているのが伺える。10年制の学校教育を修了した後に用意されている、受け皿としての高等教育機関が質の向上を図らなければ、一般教育校の教育内容の質を向上させることはできない。それらはお互いに正の相関を示しており、共に向上されてはじめて実現される質の向上であると考えられる。

この1998～1999年の教育記事を検討しながら、モンゴルの文部省から出された2000～2001年にかけての教育目標を見ていくと、その因果関係が明確になる。現状の問題に対しての対処療法的な教育目標が見えてくるのである。

### 4. モンゴルの2000～2001年の教育目標

先にも指摘したように、モンゴルが抱える経済的な問題は非常に重大である。したがって、教育目標は必然的に経済的問題を含んだものにならざるを得ない。

以下に、モンゴルの文部省が掲げた国家・市町村及び学校レベルでの教育目標を挙げてみたい。

#### (1) 国家レベルで

まず、モンゴル国としての教育目標が12項目挙げられている。

①教育予算を改善する、②社会的弱者や遊牧民の子供たちにも公平な教育を受けさせる、③教員への給与支払い期限の厳守とその支払いには国だけでなく市町村の補助も必要である、④教材及び補助教材の質を向上させる、⑤小学校就学前の児童への指導方法を改善する、⑥教師の質を向上させる、⑦現在改訂中の教科書を90%仕上げる、⑧全教育機関の20%にe-mailを設置する、⑨不登校児及びストリートチルドレンに教育を受けさせ、識字率をあげ、また社会人の一般知識の向上をはかる、⑩専門学校の教育内容を改善する、⑪各大学や専門学校の成績の評価基準を統一する、⑫自然環

TABLE. 2 モンゴルの1998～1999年にかけての主な教育記事

年	月	主 な 出 来 事
1998	3月	・文部省が一般教育校の社会科の授業内容改定作業を開始し、社会科教科書を新たに制作する。従来の教科書もこれまで通り出版され続けるので、いずれの教科書を使用するかは現場の教員と生徒の選択に任されることになる。(アルディン・エルフ)
	6月	・6月2日より、普通教育学校10年制卒業者の全国統一試験が開始された。今年は全国で35800名の生徒が卒業する予定。(アルディン・エルフ) ・今年の国立、私立大学、カレッジ、教育生産センターの卒業生数は14500名あまりである。(アルディン・エルフ)
	7月	・来年の学年度より、一般教育校に保健衛生の授業を導入することが決定した。これにより1年生から10年生までに対し、伝染病や精神・神経性疾患についての知識や、性教育、不衛生な生活習慣の防止などのテーマで授業が行なわれる。(No.146政府公報)
	11月	・教育機関の組織改編にともなって解雇されたモンゴル全国の教職員2千名に対する援助金の交付が11月10日より一斉に始まった。首都だけでも330名の教職員が解雇されており、彼らに交付される援助金は総額2億4450万トゥグルクになる。またそれら330名のうち181名は教員が不足した地方への赴任が決定している。(No.228政府公報)
	12月	・文部省が21県と首都ナライハ、バガノール地区の学校1校に各々コンピューター10台、プリンター1台を付属部品とともに配布した。(アルディン・エルフ)
1999	1月	・A.バトトゥル文部大臣は文部審議会の初会議を開き、国家試験を作成するよう指示し、専門学校の模範制度を協議し承認した。学生が類似の試験に何度も失敗するため、今年から専門学校入学者に学力、能力を裁定する試験を行うことになった。(ウンデスニイ・エルフ)
	3月	・トゥブ県ツェール、アルタンボラグ、エルデネ、バヤンジャルガラ各郡中学校教師らがストライキを行った。国家予算により運営されている上記郡の機関の職員の賃金支払いは3ヶ月間遅延している。(ゾーニイ・メデー) ・1997年にドンドゴビ県の知事官房が行った県民教育水準調査によると、文盲が771名、初等教育のみを受けた者が7641名おり、合計すると8歳から19歳までの人口の27.2%に相当する。また、学校には全く行ったことがなく、文字も知らない8歳から15歳までのこどもは844名で、学齢期の児童の7.2%に相当している。このためドンドゴビ県では4月より16歳から49歳の就学経験のない人々、10歳から16歳の中途退学児童の文字教育水準を明らかにし、毎年、こうした文字啓蒙事業に予算をつけることを決定した。(ウッドリン・ソニン)
	5月	・5月5日、ソングノハイルハン区の学校教師、幼稚園保育士らが3月から未払いとなっている給与の給付を求めて、モンゴル労働組合連盟講堂で集会を行った。(ゾーニイ・メデー) ・ダルハンオール県ダルハン郡国立教育機関、病院、その他のサービス機関職員が3月、4月分の給料を5月12日までに支払うよう求め、これに応じない場合はストライキを行うと通知した。(ウッドリン・ソニン) ・5月24日、エルデネット市10年制中学校のうち第1、第3、第4中学校の教師らが賃金支給遅延に抗議してストライキを行った。(ゾーニイ・メデー)
	6月	・6月10日、大蔵省は各地方の教職員の給与支払を目的として、29億トゥグルクを各地方に補填することを決めた。(ウッドリン・ソニン)
	10月	・国際教師の日に当たる10月5日、首都ソングノハイルハン区の教師らが8～9月分の給与支払を求めてストライキを実施し、区役所前でデモを行った。(ウッドリン・ソニン) ・今年度の大学入学者2万1千人のうち試験成績が合格点に達していなかった者が2550人、試験に参加もしていなかった者が350人おり、前者は試験の総合点がよければ合格扱いとされ、後者は入学取り消し処分とされた。(ウッドリン・ソニン)

出展) 外務省アジア局中国科『モンゴル月報』第290号(1998年3月号)～第309号(平成1999年10月)より抜粋。

境に臨機応変に対応できる態勢を整える。

これまで示したように、12項目の大半が経済と結びつく教育目標であることが理解できる。おそらく、モンゴルの経済が回復すればすぐにでも達成される目標は多いはずである。しかし、例えば⑧ 全教育機関の20%にe-mailを設置することは達成されてもそのコンピューターの台数は十分でないし、それを教えることができる教師がいない。また、⑩・⑪の専門学校や大学の教育内容や評価基準の改善については、多角的な研究を行わなければ達成されることはないであろう。モンゴルが社会主義の時代には、国の研究機関である科学研究所の様々な研究は活発であったが、民主主義化してからは盛んに研究をしなくなったということもあり、これらの教育目標の制定および達成には海外からの人材的な支援が必要なのかもしれない。

## (2) 市町村及び学校のレベルで

次に、市町村及び学校のレベルで達成する教育目標が掲げられている。

① 国への依存を減らし、教師・児童・生徒・保護者の意見を教育に反映させる、② 教育内容の基準や生徒評価を査定する、③ 教師の教育技術を改善させ、質の向上をはかる、④ 不登校児及びストリートチルドレンに対し登校を促す、⑤ 学校の行事等は教師が管理・監視する、⑥ 教室での児童・生徒の飲酒を禁止する計画を立案し、実行する。

以上6項目が挙げられているが、モンゴルの教育においては国家に予算的にも制度的にも多大に依存している様子が伺える。社会主義時代の集団主義的な認識が残っているのかもしれない。

また、① 教師・児童・生徒・保護者の意見を教育に反映させるという項目があるが、社会主義の時代には専制型一斉指導であり、授業中児童・生徒に話をさせることがなかったほどの徹底ぶりであった。しかし、民主主義に移行してからは児童・生徒や保護者の意見を積極的に取り入れるようになっていくことがこの項目からも明らかである。

④ の不登校児及びストリートチルドレンに対しては、現在も対策を行なっている様子でどこの家庭の子どもが登校していないのかを調査している段階である。そして、その子どもたちに対して登校を促すよう働きかけをし、就学率を100%に近づけていくこともまた、教育目標の一つとなっている。

これらの教育目標は、現在のモンゴルの経済状態や1998～1999年の教育記事と照らし合わせていくと、その因果が明らかになるところが、対症療法的な教育目標

であることを明示しているのかもしれない。

## 5. モンゴルが抱える教育課題

1999年のモンゴル経済はGDPを見る限り、目標値の3.5%成長を達成して1998年並みのプラス成長を維持している。また、失業登録者数は2000年1月1日現在、3万9800人であるが、これは1998年比20%余(1万100人)の減であり、雇用状況は若干改善していると言える。しかし、1999年中に発生した教師のストライキは国内で5件に達している。この教師の賃金ストライキは、1990年の民主化以降、約70年間続いた社会主義が放棄されてから頻繁に発生するようになり、1995年春には急激なインフレから学校が閉鎖状態に追い込まれるほど大規模なストライキに至っている。民主化以降の教師の賃金低下は、優秀な教師の民間流出につながる大きな教育問題であったが、それに歯止めをかけられないほどの経済状態の悪化が続くことになる。このように教師の基本的生活を保証できないことは、教育の質の低下につながる。教師のモラルが低下すれば、教師が関与する教育効果は上がらない。

したがって、現代モンゴルが抱える教育課題は、まず経済問題の改善が先決なのである。経済問題が解決すれば、教師の給与は保証され、失業者は減少し、ストリートチルドレンは街から姿を消すだろう。新しい学校や教材も作れるし、情報教育の充実も図れると考えられるのである。つまり、経済問題を優先して解決し、それが解決されて初めて、学校教育の制度的な問題や教育内容の充実に教育達成目標が移行していくことができるのではないだろうか。たとえ対症療法的な問題解決策であったとしても、発展途上国として抱える経済問題は切実である。しかし、一方今後発展し続けていける大きな可能性を秘めている。つまり、モンゴル国は経済問題という壁を乗り越えることによって、本来の意味で、教育達成を見出し、よりよい国を作るための礎を作ることができるのである。

## おわりに

モンゴルはロシアと中国という大国に囲まれている。つまり海に接していない。工業国でもないし、農業国でもない。人口約245万人に対して、五畜と呼ばれる馬・牛・羊・山羊・ラクダ約3350万頭を有する遊牧国家なのである。その遊牧国家が今変わろうとしている。司馬遼太郎(1995)は、モンゴル人の「寡欲」を指摘しているが、遊牧民は移動の便を考え、物を貯えることはほとんどしてこなかった。その習慣が、市場経済を基本とする民主主義への移行を成功させなかった要因とも考えられ

る。

しかし、モンゴル経済は1994年以来、6年連続してプラス成長を維持している。国家としての自立を求めてモンゴル経済は、着実に改善されてきている。これは発展の兆しであり、変化への第一歩である。

また、モンゴル人は他民族の職しごとのできばえを賞でることができる性質を有すると言われている。したがって、民主主義の先進国を手本にし、そこから人材を登用してモンゴル国を作り上げていくことが、現在必要なことなのかもしれない。その際に、「寡欲」を発揮し、本当にモンゴル国にとって必要な要素だけを取捨選択していくことが、今後のモンゴル経済や学校教育の発展に求められていると考えるのである。これは発展の兆しであり、変化への第一歩である。

## 引用文献

外務省アジア局中国科 1998 モンゴル月報290～299号 外務省

外務省アジア局中国科 1999 モンゴル月報300～309号 外務省

モンゴル文部省 1998 学習指導要領 モンゴル文部省

モンゴル文部省 2000 2000～2001年にかけての教育目標 (内部資料) モンゴル文部省

司馬遼太郎 1995 草原の記 新潮社

(2001年9月20日 受稿)

### [付記]

本研究を進めるにあたり、ご指導下さいました梶田正巳先生と、調査にご協力下さいましたウランバートル市教育長 Dorj 氏と国立学校の先生方および児童・生徒の皆さんに深く感謝致します。また、モンゴル語の日本語訳に際しご協力いただいた Tsog Agar 氏に心から感謝致します。

※本論文は、2000年10月14日～21日までのモンゴルでの学校見学と帰国してからの文献研究にて執筆した論文です。

## ABSTRACT

### Educational Subjects Held by the Mongolians — Economic Problems as A Core Factor —

Ritsuko NAKA

In 1990, the 70 year old history of Mongolian Socialism had its end, and the new history of its Democracy started. Under such a dramatic change in the market economy system, Mongolian economy was oppressed. Prices were increased, and it caused a wide disparity in wealth among the Mongolian civilians.

In the meantime, its schooling system also emerged from the Russian (then called as USSR) control. The Mongolian started their own reorganization in educational system.

However, due to the economic problem, a salary of the teachers decreased tremendously. Thus, those capable and talented teachers found opportunities out side of the public schooling system.

The strikes caused by either the teachers' employment discharges or their unpaid salaries were held one after another continuously, never knowing when to stop.

In the Spring of 1995, they had a record breaking strike which almost resulted in a lock out of schooling.

To make it worse, the unemployment rate was increased. This also led to the more increase in the numbers of the "Street Children." Hence, nomads' children living in the suburban area were also tended to losing their opportunity in education.

On the other hand, the educational system organized during the socialism period was liberated by the democracy. Going under various try and error learning experiences, they tried to find out the way to bring back the Mongolian pride in both themselves and in their system. They started a new challenge to restore Mongolian language which has been practiced since the Chinggis Khan dynasty.

According to the GDP of Mongolia, the economy showed its stabilized positive growth of 3.5 % and marked above its targeted growth rate. The ratio of the registered unemployment decreased as well. As above, we could say that the economy is growing gradually.

It used to be the economy brought the change in the education and set a educational object/goal without any futuristic prospect to grow there. And now, they will be able to enjoy their liberty in search of a quality education, better organization, and content in their own educational system.